科目名			担当教員	
老年心理学 B			吉川　悠貴	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
FD2545	2	1	RorSR (講義)	1 年以上
生成 AI 利用レベル		レポート　：　B	試験（スクーリング含む）　：　C	

※2018 年度以降に入学した方が対象の科目ですが、2017 年度以前入学者で「老年心理学」（科目コード：FD2517、4 単位）を単位修得していない方は、この科目を履修登録できます。単位修得済の方は履修登録できません。

科目の概要

■科目の内容

わが国では、認知症の人の増加に伴い、認知症の人の生活をどのように支えていくのかということが、社会の大きな課題となっています。その一方で、認知症という病気や認知症の人の心理、適切なケアのあり方等については、未だ十分な理解に至っていないのが現状です。本科目では、これらの問題について、特に心理学的な観点を中心に、系統的に学習していくことをねらいとしています。具体的には、認知症を取り巻く現代社会の状況や制度・施策、認知症という病気や症状に関する基礎的な知識を得た上で、認知症の人の心理や心理に影響する要因を理解したケアのあり方等を考えていきます。また、認知症の人を介護する家族等の心理についても理解していきます。具体的な課題として、虐待や権利擁護等の問題についても考えます。

■到達目標

１）認知症を取り巻く現状、認知症という病気やその症状について、基本的な事項を説明できる。
２）認知症の人の心理や心理に影響する要因について、具体的に解説できる。
３）認知症に関係する言語や感情の仕組みのほか、感情が行動に及ぼす影響を理解する。
４）認知症の人や介護する家族等の心理を理解した上でのケアのあり方について、自分の意見を述べることができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人間理解力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 40%＋スクーリング評価 or 科目修了試験 60%

■教科書・参考図書

【教科書】

本間昭編『介護福祉士養成テキストブック 11　認知症の理解　第 2 版』ミネルヴァ書房、2013 年（第 2 版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2013 年 4 月

（スクーリング時の教科書）上記教科書は、参考程度に使用します。

【参考図書】

１）日本認知症ケア学会編『改訂４版・認知症ケアの基礎（認知症ケア標準テキスト）』ワールドプランニング、2016 年

２）加藤伸司著『認知症になるとなぜ「不可解な行動」をとるのか（増補新版）』河出書房新社、2016 年

３）佐藤眞一著『認知症の人の心の中はどうなっているのか？』光文社新書、2018 年

スクーリング

■スクーリング受講にあたっての留意事項

「老年心理学 A」のスクーリングを受講してから、本科目を受講することを推奨します。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	認知症の基礎知識Ⅰ	認知症を取り巻く現状、捉え方や制度・施策の変遷
2	認知症の基礎知識Ⅱ	軽度認知障害、予防を含む概念・知見の理解
3	認知症の基礎知識Ⅲ	認知症の原因疾患、及び症状の理解と評価
4	認知症の心理とケアⅠ	中核症状と本人の心理、及びケアの原則
5	認知症の心理とケアⅡ	行動・心理症状と本人の心理、及びアセスメント
6	認知症の心理とケアⅢ	本人及び専門職の心理を踏まえた権利擁護
7	介護者の心理と支援	介護者の心理と危機、及び支援のあり方
8	関連課題	セルフ・ネグレクト、意思決定支援等の関連課題
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング　評価基準

試験は、論述形式で行います。単に講義資料や教科書からの抜粋を行うのではなく、実生活に即した講義内容の咀嚼と、考察を行うことが求められます（教科書・配付資料持込可）

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

教科書は参考程度に使用しますが、教科書の第 1 章の概要を把握しておくとよいでしょう。

また、興味を持った報道や身近な事例などから、認知症を取り巻く現状や認知症の人の心理について、各自事前に考えておいてください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	認知症の基礎知識① （第１章）	認知症、及び認知症の人を取り巻く現状について、概要を理解する)。 キーワード：認知症、歴史、対策	わが国における高齢者ケア・認知症ケアの歴史を踏まえて、現状を理解していきましょう。また、認知症とはどのような病気であるか、自分のこれまでのイメージと照らし合わせながら整理してみましょう。
2	認知症の基礎知識② （第１章）	認知症の定義や症状、アセスメント等の基本的な事項について学ぶ。 キーワード：認知症、定義、原因疾患、症状、アセスメント	認知症の基本的な理解として、定義や症状の概要、アセスメント領域について理解しましょう。
3	認知症の基礎知識③ （第１章）	認知症の病態・症状について詳細を理解する。また発症機序、危険因子、治療について概要を学ぶ（主に原因疾患について)。 キーワード：病態、原因疾患、若年性認知症	認知症の原因疾患を中心に、病態・症状を整理しましょう。変性疾患、血管性以外については、暗記するというよりは、分類の構造を理解するようにしましょう。また、若年性認知症についても理解しましょう。
4	認知症の基礎知識④ （第１章）	認知症の病態・症状について詳細を理解する。また発症機序、危険因子、治療について概要を学ぶ(主に治療・予防について)。 キーワード：病態、発症機序、危険因子（予防因子)、軽度認知障害	発症機序や危険因子（予防因子）等について理解した上で、予防や治療として現在どのような対応が行われているか考えていきましょう。薬物療法以外の治療的対応、発症以前の予防という視点も含められるとよいでしょう。
5	認知症ケアの基本 （第２章）	認知症の人へのケアにおける原則的な考え方、及び基本的なケアの方向性を学ぶ。 キーワード：認知症ケア、コミュニケーション	認知症の人へ適切なケアを行うために必要な、ケアの原則と基本的なケアについて、枠組みを把握しましょう。また、具体的な声掛けや配慮等の対応場面を想定しながら考えましょう。
6	認知症ケアの基本 （第２章）	認知症の人へのケアにおける原則的な考え方、方向性を踏まえて、その実現のために必要な、認知症の人や症状の理解のしかたについても学ぶ。 キーワード：認知症ケア、アセスメント、生活援助	認知症の人へ適切なケアを行うために必要な、ケアの原則と方向性を踏まえて、アセスメントや生活支援の内容を具体的に考えていきましょう。
7	認知症ケアに関する行政施策 （第３章）	わが国の認知症施策について、今後の動向を含めて理解する。 キーワード：認知症施策、オレンジプラン、新オレンジプラン	認知症施策の流れや概要をつかみましょう。なお、オレンジプランは内容を更新して「新オレンジプラン」として再整理されていますので、厚生労働省ウェブサイト等から情報を補足することをお奨めします。
8	認知症の人とのコミュニケーション （第４章）	認知症の人とのコミュニケーションについて、基礎的な事項を理解する。 キーワード：コミュニケーション	認知症の人とのコミュニケーションについて、どのような姿勢で臨むべきか考えながら、教科書の内容を整理していきましょう。
9	認知症ケアにおけるチームケア （第５章）	チームケアの考え方や実際について理解する。 キーワード：チームケア	チームケアのプロセスや実際について、認知症ケアにおける必要性を考えながら、教科書の内容を整理していきましょう。

10	居住環境と地域 （第５章）	認知症の人にとっての居住環境、及び地域におけるサポート体制の重要性を、地域包括ケアの観点から理解する。 キーワード：環境、地域包括ケア、コミュニティ	認知症の人の、在宅での具体的な生活を想定して、居住環境や地域という観点からのサポートのあり方について、本人の心理を踏まえて考えてみましょう。
11	認知症ケアにおけるリスクマネジメント （第５章）	認知症ケアにおけるリスクマネジメントについて、基本的な事項と必要性・方向性を理解する。 キーワード：リスク、リスクマネジメント、身体拘束、高齢者虐待	認知症ケアという特性を踏まえて、リスクマネジメントの考え方を理解しましょう。また、関係する大きな問題として、虐待や身体拘束の問題についても理解しましょう。
12	家族への支援① （第６章）	認知症の人を介護する家族の心理や支援について、基本的な事項を理解する。 キーワード：家族、受容、家族支援	認知症の人を家族として介護する、という状況について、家族の心理過程を考えながら、教科書の内容を整理していきましょう。
13	家族への支援② （第６章、及び第５章３―４）	家族支援における社会資源の活用について、地域包括ケア、虐待防止の観点を含めて理解する。 キーワード：社会資源、地域包括ケア、高齢者虐待	家族支援という観点から、制度利用（フォーマル資源の利用）からインフォーマルな資源の利用まで、社会資源の活用方法や効果を考えてみましょう。 またそのことの地域包括ケアや高齢者虐待防止としての意味についても考えてみましょう。
14	権利擁護① （第７章）	認知症の人の人権擁護について、制度の概要を学ぶ。 キーワード：権利擁護、成年後見、日常生活自立支援事業	権利侵害の実態やリスクマネジメントの考え方を理解した上で、権利擁護を行うための制度について理解していきましょう。
15	権利擁護② （第７章）	認知症の人の権利侵害被害として、高齢者虐待の問題について理解を深める。 キーワード：高齢者虐待、高齢者虐待防止法	認知症の人が虐待等の権利侵害を受けやすい状況や、受けた場合の支援のあり方等を考えながら教科書の内容をみていきましょう。第５章、第６章も適宜振り返りながら進めるとよいでしょう。

■レポート課題

１単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
２単位め	認知症の症状について、中核症状と行動・心理症状という観点から整理した上で、症状の出現に影響する要因について具体的に示しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

教科書の第１章第２節・第３節・第６節を中心によく読み、第２章なども参考にしながらまとめてください。単に症状や影響要因を列記するのではなく、中核症状と行動・心理症状（周辺症状）という区分を理解した上で、影響しうる要因がどのように作用し、どのように症状があらわれるのかを説明してください。特に、中核症状がある状態から、どのようにして行動・心理症状があらわれるのか、という観点や、本人の心理的プロセスを重視してください。具体的な例などを示しながら説明できると、なおよいでしょう。

なお、レポート課題全般にいえることですが、単に教科書を要約するだけではなく、それをどのような構成でまとめるか、さらにそれを踏まえて自分の考えをどのように述べていくか、ということを意識して作成してください。教科書の内容をまとめただけ、自分の意見を述べただけ、のどちらの場合も、レポートとしては十分とはいえません。また、レポートの最後に参考にした（引用した）文献を一覧にして掲載し、レポート本文中の引用箇所に文献番号を記載してください。

科目修了試験

■評価基準

内容理解・説明ができているかが評価の前提となるが、試験問題によって、具体的な説明もしくは解答者自身の考察のいずれかもしくは両方を求めており、これらが記述されているかどうかが評価の基準となる。